

令和3年度 行政評価2次評価結果

施策名	生涯学習環境の整備
-----	-----------

1 施策評価

	担当所管による評価	担当所管	地域教育部
1 次 評 価	施策指標1「図書館の年間入場者数」【策定時:195.8万人 目標: 222万人】 【実績】109.0万人 【進捗状況】B		
2 次 評 価	行政評価委員会委員等の主な意見	<p>(1)図書館のICT化を積極的に進め、いつでも、どこでも読書ができる電子書籍の充実に努めてもらいたい。</p> <p>(2)本市の目指すべき図書館の在り方を、市民のニーズを的確に捉えて、明確に打ち出してもらいたい。市民の読書活動を推進し、生涯学習の幅を広げることや、子供の読書活動の推進を主たる目的とするのであれば、出前講座など幅広い事業展開に取り組んでもらいたい。</p> <p>(3)市立図書館の役割や市立図書館のあるべき姿を明確にし、その役割を果たして行く必要がある。また、各館・分室の特徴を明確にすることが、図書館の魅力になるため、それぞれのコンセプトを明確に打ち出してもらいたい。</p> <p>(4)障がい者、子育て世代など、専門的な情報を必要とする市民からの問合せ状況といったユニバーサルな視点を要素とした指標が必要である。</p> <p>(5)市民に何を普及させたいのかを明確にするとともに、その目指す姿に近づいているかどうかを検証可能な指標が必要である。</p> <p>(6)本市図書館の、地域の学びに果たす役割を再整理し、市民の暮らしに与える効果を想定することが大切である。その過程として数値目標を設定することで、目標値に達成意義が生まれる。</p> <p>(7)図書館サービスの評価については、図書購入数といったインプット、貸出冊数をはじめとするアウトプットだけでなく、市民や利用者はどう変わったかといったアウトカムの視点が必要である。</p>	
	行政評価委員会による総合評価	<p>図書館の年間入場者数を施策指標として掲げているが、施策を推進するに当たり、単に来館者を増やすというのではなく、市の図書館が果たす役割や各図書館の特色を明確にした上で、目指すべき姿に向かって取組を進める必要がある。</p> <p>また、新しい生活様式が求められる中、電子書籍の拡充を含めた図書館のICT化を十分に進めることに加えて、事業全体の持続可能性を高めるため、事業・業務の見直しを改めて行うとともに、これらの視点を、現在策定作業中の「第2次吹田市立図書館基本構想(案)」にも盛り込むべきと考える。</p>	

2 事業評価

(1) 管理事業評価

管理事業名		図書館事業
1 次 評 価	担当所管による評価	<p>事業コストのほとんどが窓口等業務委託料を含む人的経費です。255万点を超える貸出に係る業務、113万点を超える予約受付に係る業務、読書活動推進に係る業務、資料の調査相談など、図書館サービスに必要な経費であると判断しています。令和2年度は健都ライブラリーの供用開始、耐震補強等改修工事を終えた中央図書館の再開館に伴い、貸出点数の増加を見込んでおりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、市内の全図書館を臨時休館した影響から減少となりました。臨時休館期間中は、市民の外出自粛を促し、在宅時間を過ごす材料として予約資料の貸出を継続実施したことにより、予約受付件数については令和元年度を上回ることとなりました。健都ライブラリーの開館により市内10館となった図書館サービス網において、市職員の司書がさらに市民の読書活動を専門的・継続的に支援し、市民が気軽に参加できる文化・教養講座や子供向け行事等の開催をコストをかけずに取組み、貸出点数等の増加を目指します。</p> <p>また、今後の施設整備関係につきましては、北千里分室は「北千里小学校跡地複合施設建設整備基本計画」に基づき、狭あい及び老朽化を解消するため、令和4年度開館を目指し、整備を進めています。江坂図書館については、「江坂公園の魅力向上事業」において、令和4年度以降に狭あいを解消し、施設の改修を行う取組みを進めています。収入については、図書館法第17条で入館料その他図書資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならないとされており、基本的に無料の施設であるためほとんどありませんが、一般財源を少しでも減らせるように、貸出レシートへの掲載に係る広告収入等、歳入の確保に努めており、今後も引き続きコスト削減を検討していきます。</p>
2 次 評 価	行政評価委員会委員等の主な意見	<p>(1) 今後、ハード・事業を適切に維持管理していく業務がさらに増大していく中で、今一度、事業全体の持続可能性を高める見直しの視点などを新構想にも盛り込んでもらいたい。</p> <p>(2) 「いつでも、どこでも、だれでも」という基本理念を見直さなければ、今後の支出の増大に対応することができない。一例として、図書館数が多すぎるので館を減らすことや毎日開館の見直しの検討も必要である。</p> <p>(3) 市立図書館の運営管理について検討する際には、業務の省力化や館の数と配置を検討し、電子化や機械化の可能性を探ることも必要である。</p>
	行政評価委員会による総合評価	<p>今後、蔵書の増加や館の維持管理に対する経常的な経費が見込まれる。本事業の目指すべき姿、役割を整理し、その目標の達成に向け、ICTの導入や機械による自動化など、持続可能性の高い手法を積極的に用いて、効果的、効率的に事業を推進すること。</p>

(2) 予算事業評価

	予算事業名 〔室課名〕	予算事業の今後の方向性					
		1次評価(担当室課)		2次評価(行政評価委員会)			
		事業の概要と課題	今後の方向性	議論の中心事業	行政評価委員会委員等の主な意見	2次評価結果 (総合評価・評価結果の説明)	
1	図書館運営事業 〔中央図書館〕	<p>【事業概要】 図書等資料の収集、閲覧、貸出、予約、相談業務、利用案内及び蔵書管理業務等を行う。そのうち、図書等資料の収集、相談業務、蔵書管理業務に加え、学校への読書活動支援、地域団体との連携等は司書資格を有する市職員が担っている。中央図書館は、中央館として企画立案を行い全館の運営事業の統括を行っている。 図書館の広域連携(相互利用)では、市民及び本市に隣接する市の市民が、北摂地区7市3町にある公立図書館を相互利用ができる他、江坂図書館とさんくす図書館では大阪市民が利用できる。また、吹田市、豊中市及び箕面市の3市間における図書の相互貸借事業では、市内の図書館に所蔵していないリクエストされた図書を、他市の図書館から借り受け、市民に提供している。 取組「子どもたちに読ませたい100冊の本」では、子供が本に親しむ環境づくりを行うため、市民委員の参加する委員会で選定された100冊の本を全図書館に設置し貸出を行う。 【課題】 北千里分室並びに江坂図書館は、施設が狭隘のため、利用要求に見合ったサービスが十分に行えない状況である。令和4年度に再整備を予定している。非来館型サービスとして、電子書籍の拡充が課題である。取組「子どもたちに読ませたい100冊の本」については、改訂を行った推薦図書の内容をまとめた冊子の発行等広報活動を予定している。北摂図書館相互貸借事業については、資料運搬の外部委託が課題となっている。</p>	継続	○	<p>(1) 司書資格が必要な業務と無資格で行える業務の整理をしてもらいたい。その上で、市職員司書はその能力を最大限いかすため、企画立案やレファレンスに特化してもらいたい。 (2) 窓口業務委託の効果検証や指定管理者との業務分担などを再整理し、司書の配置や人員について、また、今後の司書の在り方について検討を深めてもらいたい。 (3) 職員が中長期的な視点を持って担い続けるべきものと、民間活用を図るほうが効果的、効率的であるものの整理をしてもらいたい。 (4) 中央図書館において集約的、総括的に行うものと、各館の特色を生かし、個々に取り組むものを整理してほしい。各館の特色を明確にすることで、おのずから運営方法の選択理由が明確になると考える。 (5) 図書の寄贈を、より受けやすくするシステムを作ってもらいたい。図書購入費の削減にもつながるし、貴重な文献の散逸も減る。</p>	改善 見直し	<p>本市図書館の役割を明確にするとともに、司書でなければ行えない業務、司書資格がなくても行える業務、また、民間活力を活用し推進すべき業務を再整理し、適正な人員の配置とすること。 その上で、次の見直しの検討を行うこと。 1、市職員司書については、企画立案やレファレンス業務に特化できるよう、業務の見直しを行うこと。 2、指定管理者に司書資格を求めるかなど、司書の配置方法等や今後の在り方について検討すること。 3、一部の図書館で導入が進んでいる窓口業務委託について、中央図書館での導入を検討すること。</p>

予算事業名 〔室課名〕	予算事業の今後の方向性					
	1次評価(担当室課)		2次評価(行政評価委員会)			
	事業の概要と課題	今後の方向性	議論の中心事業	行政評価委員会委員等の主な意見	2次評価結果 (総合評価・評価結果の説明)	
2 図書館管理事業 〔中央図書館〕	<p>【事業概要】 施設の維持と利用者の安全確保のため、メンテナンス等を行い適切な管理運営を行うとともに、図書館資料の貸出・返却、データ管理、インターネットからの蔵書検索・予約など、資料及び利用者のデータや資料動態を管理するシステムの整備を行う。また、年3回協議会を開催し、図書館の運営について意見を述べるとともに、館長の諮問に対して答申を行うほか、運営について外部評価を行う。</p> <p>【課題】 経年劣化による建物及び設備の改修の必要性が課題となっている。北千里分室については、北千里小学校跡地に、図書館、公民館、児童センターを融合した複合施設の整備を行い令和4年度の供用開始を予定している。江坂図書館についても、令和4年度からPark-PFI手法を導入し、江坂公園とともに再整備を進める予定である。</p>	継続	○	<p>(1)施設管理のために引き続き指定管理者制度を積極的に取り入れてほしい。 (2)指定管理者制度を導入する場合も、図書館事業の根幹的な事項は市職員司書が行うべき。 (3)指定管理者制度の導入や業務委託だけでは、コスト削減には限界があるので、貸出・返却に配送業務を挟み、館を統合することや、貸出・返却業務を機械による無人化することなど抜本的に業務を見直すことが必要である。 (4)図書館業務と他業務の事業目的を複合化しながら管理する手法に踏み込んでいるが、それらの運営が軌道に乗るよう効果検証を精力的に行ってほしい。</p>	改善見直し	<p>施設管理のために引き続き指定管理者制度を積極的に取り入れること。ただし、導入に当たっては、図書館運営事業での2次評価結果を踏まえた業務の再整理を行うこと。その上で、直営部分と指定管理者が担う部分の役割分担を明確にし、生涯学習活動の推進に関して専門性、継続性等が必要と位置付ける部分については市で担うこと。</p>
3 図書館主催事業 〔中央図書館〕	<p>【事業概要】 千里山・佐井寺図書館では、ボランティアの協力を得ながら録音図書及び点字図書を製作・貸出するとともに、図書館の障がい者サービスに携わる各種ボランティアを養成し、ボランティアの技能向上のためのスキルアップ講座を実施している。また、対面朗読サービスを分室を除く8つの図書館で実施している。市内図書館と自動車文庫では赤ちゃんとその保護者に絵本を1冊プレゼントし、ボランティアによる絵本の読み聞かせ等を行う「ブックスタートのひろば」を市内図書館で実施している。また、市民の読書活動を支援し、生涯学習の幅を広げるために講座等を企画実施するほか、子供の読書活動推進と図書館利用の増加を図るため、子供向けの行事や講演会なども実施している。</p> <p>【課題】 ブックスタートの絵本の配布率については、のびのび子育てプラザ、保健センターと連携して100%を目指して様々な工夫を行っていく。</p>	継続	○	<p>(1)市職員司書が行う業務を整理した上で、図書館内で行う行事に加え、地域や学校などに出向いて「出前講座」を行うなど、生涯学習環境の整備に向けて、幅広く事業展開してもらいたい。 (2)書籍、読書の魅力向上の取組と、本市の図書館の魅力向上を分けて、それぞれの目的に応じた事業を展開する必要がある。また、目的が明確でないものがあれば、事業目的や対象者を明確にし、再構築する必要がある。 (3)各館の主催事業について積極的にホームページに掲載するなど、市民が図書館に足を運ぶ機会を増やす努力をしてほしい。また、出版社等の民間事業者と協働で事業を実施し、民間活力を取り込むような取り組みも必要である。 (4)生涯学習の拠点として、他部局と連携しセミナーの開催等を行い、幅広い世代の社会参画を促してほしい。</p>	改善見直し	<p>幅広い年代を対象とした生涯学習の拠点として、地域で果たせる役割をより広く捉えて、事業展開すること。また、市職員の専門性と民間事業者のノウハウの両方を生かして、事業実施に取り組むこと。</p>

	予算事業名 〔室課名〕	予算事業の今後の方向性					
		1次評価(担当室課)		2次評価(行政評価委員会)			
		事業の概要と課題	今後の方向性	議論の中心事業	行政評価委員会委員等の主な意見	2次評価結果 (総合評価・評価結果の説明)	
4	千里ニュータウンプラザ 管理事業 〔中央図書館〕	<p>【事業概要】 千里図書館の施設の維持と利用者の安全確保のためメンテナンス等を行い、適切な管理運営を行う。</p> <p>【課題】 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館等の影響を受けたものの、千里図書館は千里ニュータウン地域の図書館として、施設利用は高い水準で推移している。管理経費についてはPFI事業のため一定している。施設環境は快適で、一層の利用が見込まれる。定期的に連絡会が開催され施設管理の情報共有を行っている。</p>	継続		—	継続	1次評価どおりとする。
5	北千里小学校跡地複合 施設整備事業(図書館) 〔中央図書館〕	<p>【事業概要】 北千里小学校跡地に、北千里地区公民館及び千里図書館北千里分室を移転するとともに児童館を新設して複合施設として整備し、世代間交流の促進によるまちの活性化を図る。</p> <p>【課題】 令和4年度に北千里小学校跡地複合施設が整備され、千里図書館北千里分室が同施設へ移転することにより、長年の課題であった施設の狭隘が解消される。</p>	継続		地区公民館、児童センターと複合化して、指定管理者制度を活用することになる。ICT機器を先駆的に取り入れるとともに、複合化のメリットを最大限活かした館運営に取り組むこと。	継続	1次評価どおりとする。ただし、複合化施設のメリットやICTをいかした運営となるようにすること。
6	((仮称)健都ライブラ リ整備事業) 〔中央図書館〕	—	—		—	—	—

※()書きの事業は、昨年度で終了した事業や、指定管理者制度導入施設の管理運営事業など、評価対象外とした事業です。